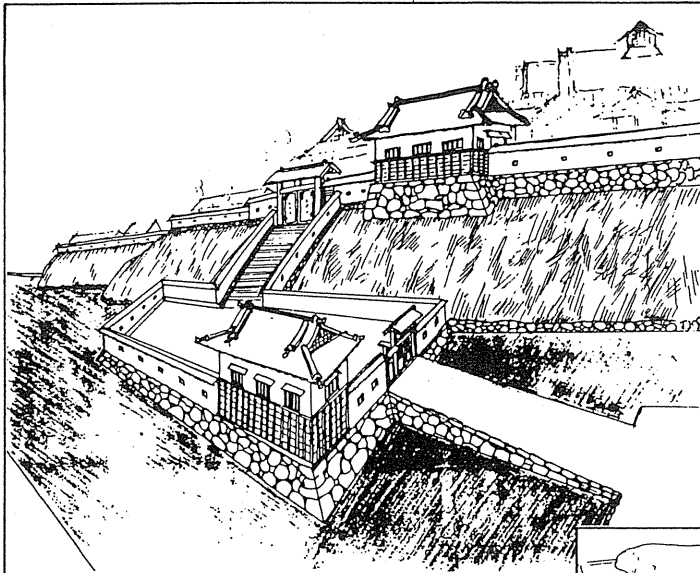


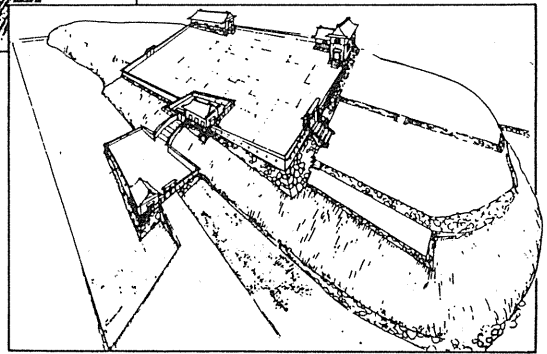


『播州林田城下』をたずねて



林田陣屋推定復元図

岡 久雄氏 (加古川市在住、城郭研究家) が踏査をかさね、元村長、長谷川佳氏の談話を加えて昭和43年に作成したもの。南面している表門は複雑な構造になっている。林田陣屋の絵図が1枚も発見されていない現在、これは貴重な図である



建部家歴代藩主

政長 大阪夏の陣で武功をたて、川辺郡で1万石。元和3年(1617)9月林田へ、西池(鴨池)を構築

政明
まさしいえ
政宇 政明の弟、鴨池のほとりに西御殿を造営、石灯ろうを八幡、祝田両社へ寄進

まさちか
政周
政民
ながのり
長教 済水寺にある「寛量院殿茶毗所之塔」は彼のもの

まさかた
政賢 石灯ろうを、八幡、祝田両社へ寄進、敬業館を開設、長教の弟

まさあつ
政醇
まさかず
政和 石灯ろうを、八幡、祝田両社へ寄進
鉄兜を敬業館教授にむかえる

政世 最後の藩主、明治2年林田藩知事

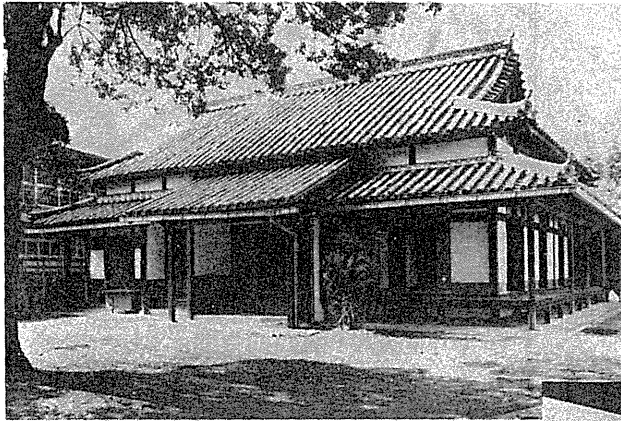
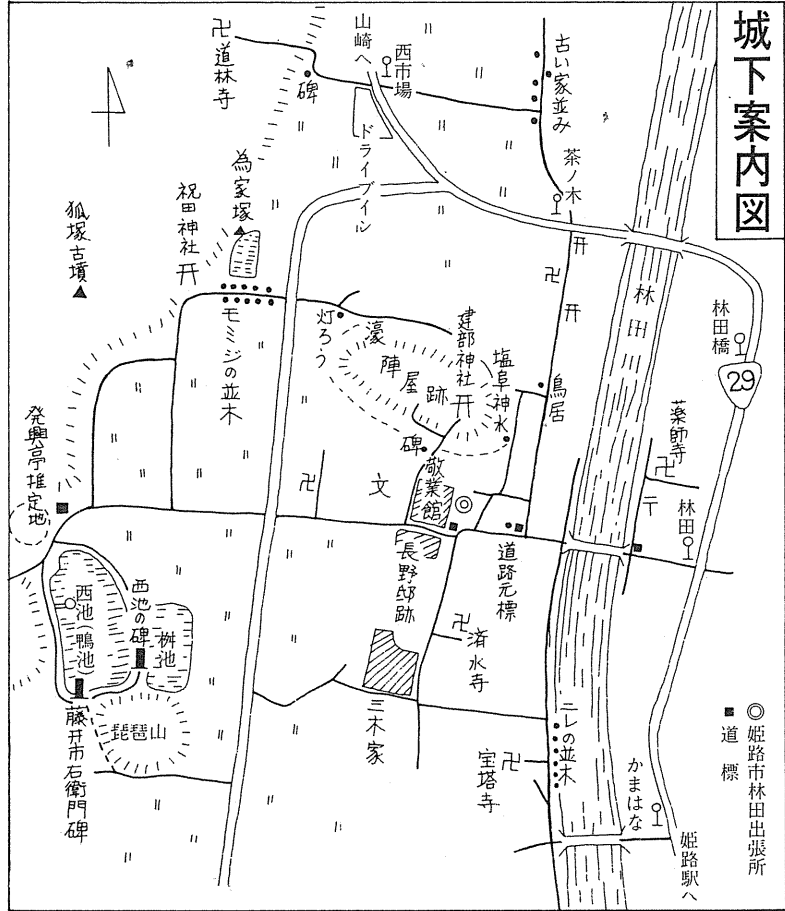
林田は建部家一万石の城下町。姫路城下より北西へ15km(四里弱)、石倉、伊勢茶屋、追分から山崎、鳥取への因幡街道筋にあり、人馬継立も行われた交通の要点であった。聖岡には建部家の居館が構えられ、岡の周囲は濠をめぐらし、濠の外は侍屋敷、すぐ東の街道筋は町家であった。今も城下町の雰囲気が漂っている。



▲薬師寺の名号塔



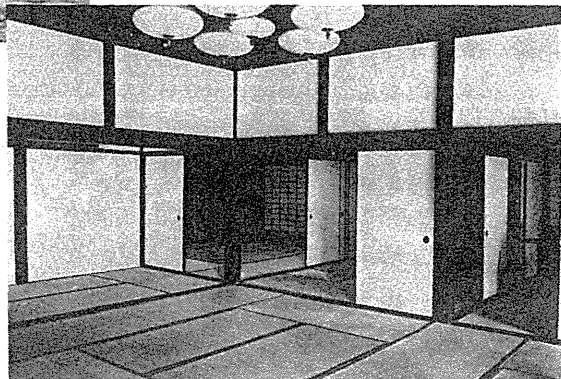
◀郵便局南の道標



敬業館

7代藩主建部政賢が寛政6年(1794)に建てた林田藩校。文久年間に火災にあったが、まもなく再建。聖廟、練武場、文庫など備わっていたが、今は講堂だけが残っている。全国的にみても数が少なく貴重な建物である。

講堂は明治維新によって小学校に、のち村役場、戦後は公民館に使用されているが、昭和54~55年度に復元工事が行われた。正面玄関には松平定信筆の「敬業館」の額、部屋の中には寛政6年の「建学記」、同12年の校訓ともいべき「示」と題した額が掲げてある。写真は講堂、右はその内部。



道林寺の河野鉄兜の墓碑 こうのてつとう 吉野懐古の漢詩で有名な彼は、敬業館の教授で生前よくこの寺に遊び、死後ここに墓が建てられた。正面は「文崇先生之墓」、側面に略歴が書いてある。境内には元禄7年(1694)の宝篋印塔などがある。

古い家並み 古い家が点在して街道筋の雰^{ふん}囲^{いき}気^きを残している。

薬師寺の芭蕉句碑 自然石に

〔表〕 降すとも 竹うゆる日は 簀と笠 はせを

〔裏〕 今もその しづくしとうや 時雨簀

東都駿岱五世梅亭花魁

このほか戦後建てた2基の句碑、姫路では珍しい梵字で書いた名号塔もある。

陣屋跡 林田藩主建部家の館^{ぐん}のあった所、ひしつがわ聖岡^{ひしつがわ}といった。『播磨国風土記』には塩阜と記載。戦国時代には谷沢国氏が窪山城を構えていたが、永正15年(1518)赤松政村に攻められ落城した。

塩阜神水 しおおかしんすい 「塩水がたまり、海水と往来して満ちるときは深さ三寸、牛馬がこのんで飲む」と『播磨国風土記』に記されている。今も祝田神社や八幡神社の秋祭に、ここで潮掻きの神事が行なわれる。

建部神社 初代藩主建部政長を祀る。参道には「旧林田藩卒」「栄統社中」と書いた明治19年12月寄進の石灯ろうがある。

長野家邸跡 長野家は林田藩の筆頭家老、その邸宅は敬業館の向かいにある。主屋はカヤ葺、多少改造されているが長屋門も残っている。

三木家住宅 林田藩1万石の領内に、1万石の大庄屋が3軒あった。そのうちの1軒の建物が今もあり、広い屋敷の中央にあるカヤ葺の主屋・周囲の長屋門・土蔵など6棟が県指定文化財。

済水寺の五輪塔 さいすい 「寛量院殿茶毗所之塔」と彫った大きな五輪塔が境内墓地にある。6代藩主長教のもので明和6年(1769)の造立。山門は、この地の名工鳥長兵衛の子の作で天明元年(1781)の建立。

ニレの並木 『播磨国風土記』に「伊和大神がこの地を占めたとき、ニレの木が生えた」という神話があり、ニレは林田にゆかりのある木。その並木が林田川の西岸に今も数本残っている。

宝塔寺の題目塔 文久4年(1864)のほかにも2基ある。

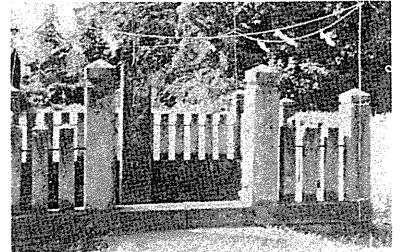
祝田神社の石灯ろう 境内に江戸時代の石灯ろうが多い。なかでも藩主建部家三代(政宇・政賢・政醇)寄進のものは大きい。

西池の碑 藩祖建部政長の武功や西(鴨)池築造の由来、3代政宇が西御殿(発興亭)を作った事績などを記している。文と筆跡は敬業館教授石野^{いしの}郷^{ごう}のもので文化13年(1816)に建てた。全藩土がこれを暗唱したという。

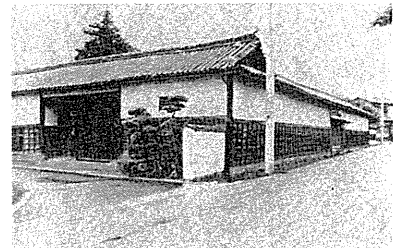
藤井市右衛門の碑 市右衛門は寛政4年(1792)6月の水ききんに、藩命にそむいてまで付近4か村の田の水を確保した。翌年2月死刑。碑は明治13年に建てられたもの。



古い家並み



塩阜神水



三木家住宅長屋門



ニレの並木



西池(鴨池)



祝田神社 藩主寄進の石灯ろう

林田の里 “林田”や“伊勢野”は『播磨国風土記』の伊和大神の神話にでてゐる地名。古墳もあることから、この地は古くからひらけていたことが知れる。明治二十二年四月一日、林田村、伊勢村が誕生、昭和三十年三月二十五日、両村合併して林田町となり、昭和四十二年三月五日、姫路市に合併した。



□の範囲は2頁を参照
 ■は道標
 ▲は現状がわかりにくいもの

松山城 城主は衣笠村氏、永正15年、(1518)赤松政村により落城。

山田古墳群 開墾により消滅。簡単なつくりのもの3~4基で人骨や須恵器が出土した。

山田廃寺 江戸時代に池の構築により消滅。唐草文、蓮華文瓦が採集されていたが、大正12~13年頃、塔心礎を池の堤防修理中発見。

飯出寺跡 『播磨鑑』などに記されている寺跡。

城山 山上に曲輪がある。

八幡古墳 東斜面で昭和27年、開墾により2基発見。人骨や須恵器が出土。埋めもとして石標が建ててある。

八幡神社 建部家寄進の石灯ろうがある。

石仏 中世の石仏の様相をもっている。

空木城 尾根に曲輪をつくっている。『播州名所巡覧図絵』に「岩屋赤松遠見城跡」とあるのはこれであろう。

神坐の窟 『播州名所巡覧図絵』に記された大きな岩。



宝剣塔
 元文五年(1740)の造立、正面に「随求塔」と刻んでいる。

上伊勢古墳 羨道はくずれているが玄室は3.37m×2.17m。大きな石を用いた古墳。

伴善男の墓 池の北西部に盛土したもの。『播州名所巡覧図絵』には、子孫が建てたものだろうという。

大黒岩・亀岩 大きな岩が露出している。

柳神社 伊部焼の狛犬がある。

伊勢茶屋 因幡街道にあり、旅籠や立場(休けい所)もあった。

峰相山鶏足寺 中世播磨屈指の大寺院。その跡は谷の南斜面であろうという。